

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1 事業の趣旨・目的

兵庫県には約 10 万 3000 人の外国人が居住している。そのうちの 4 割が新渡来者であり、日本で生活するために彼らの多くが、居住地域、勤務地域で日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約 80 箇所の日本語教室がある。どの教室も恒常的な学習支援者不足である。

兵庫日本語ボランティアネットワークは県下の行政機関（国際関係課、教育委員会）国際交流協会、ひょうご日本語ネットと密接な連携関係を持っているので、人的ネットワークを生かすことができる。また、兵庫日本語ボランティアネットワークは日本語学習者のニーズに応えるための日本語学習支援者養成講座を開催してきた実績がある。

現在、兵庫日本語ボランティアネットワークでは地域、企業との連携による日本語支援システムを構築するために行政との協働事業計画を進めている。本事業では、次を目的にして行う。

- (1)地域および協働事業のモデル日本語教室でのコーディネーター的人材および支援者リーダーを育てる
- (2)学習者ニーズに応えるための支援活動を担う人材を育てる

2 企画委員会の開催について

【概要】

ひょうご日本語ネットに拡大メンバーが参加し本事業の企画、提言により本事業を推進した。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月28日	兵庫国際交流プラザ	武中初枝 松田高明 伊井直明 水野マリ子 村山 勇 青木直子 酒井滋子 岸本美紀	本事業の講座日程・内容案について	左議題への協力依頼

		奥田純子 清田薫 田中香織 長嶋昭親 湯口恵		
6月25日	同上	同上	本事業の講座日程・内容の 最終案および広報案	左議題の承認
9月14日	同上	同上	本講座の申込者、及び講座 実施の中間報告	質疑応答
2月25日	同上	同上	本講座修了報告	承認

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名:平成21年度文化庁『生活者としての日本語教育事業～コーディネーター&日本語支援者リーダー養成講座～』

(2) 研修の目標

- ①地域および協働事業のモデル日本語教室でのコーディネーター的人材および支援者リーダーを育てる
- ②学習者ニーズに応えるための支援活動を担う人材を育てる

(3) 受講者の総数 15人

(4) 開催時間数(回数) 36時間 (8回)

(5) 参加対象者の要件

- ①日本語学習支援経験2年以上の方
- ②日本語学習支援者養成講座を過去に受講した方

(6) 受講者の募集方法

- ① 平成 19 年度 20 年度文化庁『生活者としての日本語教育事業～退職教師等を対象とする日本語教育指導者養成講座』修了生にダイレクトメール
- ② 兵庫日本語ボランティアネットワークの会員(グループ30団体・個人 100 名)などにダイレクトメール
- ③ 神戸新聞による広報

(7) 研修会場

- ア 講義: のじぎく会館 7 回 神戸市婦人会館 1 回
- イ 実習: 阪神金属協同組合

(8) 使用した教材・リソース

- 「みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ」「同その教え方」スリーエーネットワーク
- 「にほんご宝船」アスク語学事業部
- 「日本語おしゃべりのたね」スリーエーネットワーク
- 青木直子ら(編)「日本語教育を学ぶ人のために」世界思想社 ...etc.

講師の自主作成レジメ

(9) 講座内容

(10) 研修の具体的内容(実施結果)

実施日時	講座名/学習内容	講師	受講者数
6月20日(土) 10:30～12:00 13:00～16:00	1. オリエンテーション 2. 自己紹介 3. 異文化学習 4. 日本語支援に関わる諸問題	兵庫日本語ボランティアネットワーク代表 長嶋 昭親 近大姫路大学準教授 吉田 晃高 NGO 神戸外国人救援ネット相談員 草加 通常	14人
6月27日(土) 10:30～12:00 13:00～16:00	1. 県内の外国事情と日本語教育事業について 2. 先進地域の日本語教育コーディネータの役割 浜松市 豊田市	(財) 兵庫県国際交流協会 日本語相談員 酒井 滋子 (財) 浜松市国際交流協会 コーディネーター 堀 永乃 名古屋大学準教授 土井 佳彦	12人

実施日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月4日 (土) 10:30～ 12:00 13:00～ 16:00	1.地域日本語教室の課題 2. 県内日本語教室のコーディネータの役割 3. 班別討議 4. コーディネータの役割について	東灘日本語教室代表 延原 臣二 日本語ひろば岡本コーディネーター 井畑真理子 兵庫日本語ボランティアネットワーク代表 長嶋 昭親	10人
7月11日 (土) 10:30～ 12:00 13:00～ 16:00	1. 研修生のバックグラウンド 2. 研修生への日本語教育の現状 3. 日本語能力と日本語コミュニケーション能力 4. 実習について	阪神金属協同組合日本語担当職員 勝田由美子 兵庫日本語ボランティアネットワーク代表 長嶋 昭親 港島日本語教室コーディネーター 尾形文	9人
7月18日 (土) 10:30～ 12:00 13:00～ 16:00	1. 授業実習について (プラン発表) 2. 授業実習 3. 研修生(被実習者)の感想	港島日本語教室コーディネーター 尾形文 兵庫日本語ボランティアネットワーク代表 長嶋 昭親 日本語教師 後藤ひろ子	9人
7月25日 (土) 10:30～ 12:00 13:00～	1. 日本語学習支援について(1)～直説法体験から学ぶ日本語支援のあり方 2. 授業実習(受講生の感想)～まとめ～ 3. 日本語学習支援について(2)～教室をデザインする	日本語教師 後藤ひろ子 兵庫県多文化共生サポーター ポロルサイ 港島日本語教室コーディネーター 尾形文	8人

実施日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8月1日 (土) 10:30 ~ 12:00 13:00~	1. モデル日本語教室構想 (1) 2. モデル日本語教室構想 (2)	港島日本語教室コーディネーター 尾形文 神戸定住外国人支援センター日本語支援者高橋 博子	9人
8月8日 (土) 10:30 ~ 12:00 13:00~	1. 地域の日本語教室紹介 2. 今後の活動について 3. 修了式・交流会	兵庫日本語ボランティアネットワーク代表 長嶋 昭親 港島日本語教室コーディネーター 尾形文 神戸定住外国人支援センター日本語支援者高橋 博子	8人

(10) 講座の評価

I. 受講生に対するアンケート

平成21年度文化庁生活者としての「外国」人に対する日本語教育事業

「日本語支援コーディネーター&リーダー養成講座」アンケート

調査日：2009.8.8 調査数：8人

1. この講座をどこで知りましたか。
- a. 学校で 0 b. 兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 5 c. 知人から 1
d. 地域の日本語教室で 1 e. 神戸新聞で 1 f. その他 0

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった 3 b. まあまあよかった 3 c. ふつう 2
d. あまりよくなかった 0 e. 全然よくなかった 0

理由、意見：

- ・ 実習やワークショップ、プレゼンテーション.etc.活動的な内容がよかった。
- ・ この講座が開かれる事を知って本当に参加させていただくことができたことに感謝。
- ・ 初参加でこんなものかしらと言う印象です。
- ・ 子ども多文化共生サポーターから日本語教室を作る、支援者リーダー、そしてコーディネーターリーダーになるための講座、組織作り、運営などの一端を勉強することができた。応募するのにはまだまだ力不足、まだその力なしを痛感した。
- ・ 日本語支援者コーディネーター及び支援者リーダー養成のねらいがよく分かりました。
- ・ ベトナム研修生と学習体験ができて良い経験になりました。

(2) 期間（4.5時間×8回）について

- a. 短かった 0 b. ちょうどよかった 6 b. ふつう 2 c. 長すぎる 0

理由、意見：

- ・ 一日研修のほうがありがたいです
- ・ 今回、足の痛みにより心配をかけましたがちょうどよかったです。
- ・ 内容とあわせて考えるとこくらの長さくらいかしらと思います。
- ・ 13:00～、18:00～の時間帯が参加しやすい。
- ・ 土曜日以外の曜日にも設定してほしいと思います。また、週2回実施して短縮を図るといいと思います。
- ・ 夏季休業中なので参加が容易でした。

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかった 3 b. まあまあよかった 4 c. ふつう 1
d. あまりよくなかった 0 e. 全然よくなかった 0

理由、意見：

- ・ 浜松の堀永乃さんのパワフルなお人柄が印象に残っています。
- ・ 他府県からの講師の方に来ていただきいろいろな情報を仕入れることができた。
- ・ それぞれの方の経験を生かされたお話も聞くことができよかったです。
- ・ 前回の退職教員対象の講座は一方的な講義形式が目立ったが今回はその面ではよくなったと思う。
- ・ 実践者による講義は参考になった。
- ・ 講師の中に学習者を招いて日本語教育の意見交換や実施することで問題点に分かると思います。
- ・ 実用的な内容でよかったと思います。

3. 講座を受けて

(1) 地域の日本語学習を必要とする「外国」人の事情が

- a. よくわかった 3 b. まあまあわかった 5 c. ふつう 0
d. あまりわからなかった 0 e. 全然わからなかった 0

理由、意見：

- ・ 外国人の支援の必要性を十分に感じとることができました。
- ・ 浜松、愛知の話もよく分かったが何と云っても阪神金属の実習でよくわかった。
- ・ 学校内児童生徒以上に生活者への指導がいかに大切かを感じとることができた。
- ・ 外国人の日常生活における問題点が数多くあるため日本語教室の必要性がよくわかった。日本語を使って日本の文化を伝えることで理解させる。

(2) 地域日本語学習支援についての課題が

- a. よくわかった 2 b. まあまあわかった 6 c. ふつう 0
d. あまりわからなかった 0 e. 全然わからなかった 0

理由、意見：

- ・ 神戸市内で約 80 箇所それぞれに特色や問題が違うことが分かりました。
- ・ 現場を経験していないことにもどかしさを感じました。
- ・ 何と云っても資金が必要と思ったが一般の人たちに日本語支援を必要とする子ども大人がいりことをもっと知らせたいと思った。

- ・ 学ぶ機会が平等に与えられることが必要。そのことが地域での生活安定につながると思う。
- ・ 支援者養成講座出席者が少ないので多くの人が集まる企画を立てることが必要と同時に多くの公的機関の人、企業の人講師がいいと思います。
- ・ 法的支援を感じました。

(3) 日本語学習支援コーディネーターの役割が

- a. よくわかった 2 b. まあまあわかった 6 c. ふつう 0
d. あまりわからなかった 0 e. 全然分からなかった 0

理由、意見：

- ・ よくわかりましたが、一（いち）ボランティアの経験から・・・とっています。
- ・ 非常に興味があります。しかしながら、その第一歩を踏み出すには勇気が必要です。
- ・ 浜松のコーディネーターの女性がとても印象に残っています。
- ・ 実感が湧かない。
- ・ 日本語学習支援コーディネーターの役割は数多くの外国人問題も対応できるようにならなければならない等多くの役割を負っている。
- ・ これからさらに経験して理解を深めます。

(4) 研修生への実習やそのまとめについて

- ・ 実習に参加できなくて大変残念でした。
- ・ 研修生へとこれからも支援協力実習させていただきたいと思います。
- ・ あの実習は狭いし暑いでしたが、本当に心に残る実習でした。
- ・ 3名とも 25 才、28 才と感じられない純粋で清らかな感じを受け真摯に気持ちよく接することができた。日本語を学ぼうとする姿勢が強く感じる事ができた。3人3様既習の違いを感じた。
- ・ 研修生への実習はまず研修生をよく知ることと支援者の人間性を理解させることが今後のコミュニケーションを進めることができるものと感じました。
- ・ 研修することの意味をもう少し説明できればよかったと思います。世界的にも高い技術に関われることの貴重さを話したかったと反省しています。
- ・ 今後私にできることがあれば協力潮定期待と思います。

4. これからのこと（複数回答 1人）

- ① 学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたい 7
② 今は、関われないが、将来関わりたい 2

- ③ わからない 0
- ④ さらに研修を受けて考える 0
- ⑤ 関わりたくない 0

これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見

- ・ 場所のじぎく会館が車利用の私にとってはとてもよかったです。
- ・ 日本語学習支援については知れば知るほど山は高く谷が深いことが分かりました。長嶋先生が14年間コツコツと積み上げられた活動がどんなものかよく分かりました、細く長く続けるためにできることから少しずつやってみたいと思っています。ありがとうございます。
- ・ 地域日本語学習支援の情報を多方面から得ることができ多大な刺激を受けることができた。しかしながら、私自身、現場の生の実情を十分に体感していないので今後現場における経験を増やしていきたい。
- ・ ネットワーク派遣時をまたお手伝いさせてください。できるだけご協力させていただきます。
- ・ 土曜日から日曜日のどちらか関わらせていただきたいと思っています。毎週は難しいですけど。
- ・ 受講成果を元に今後も積極的に対応していくつもりです。ありがとうございます。
- ・ 日本語ボランティアネットワークは約80グループありますが、一本化できないのですか？バラバラの活動は公率が悪いと思います。組織の見直しが必要だと思います。また、日本語教室の公的な事務局を設置することが今後発展すると思います。
- ・ できるだけ多くの教室で参加したいと思います。
- ・

II. 実施主体からの研修内容結果評価

- ア. 講座受講生募集期間が少なかったので広報が不十分で受講生が少なかった。
- イ. 「コーディネータ」と「支援者リーダー」と言うキーワードとその意義の理解が不十分であり修了者が15名中9名となった。
- ウ. 研修生への実習は教案作り、教材作りなど、受講生の独自の工夫が見られとても成果があった。
- エ. 他府県(豊田市、浜松市)からの実践報告により、新たな課題やコーディネータとしての役割を受講生に知らせることができた。
- オ. 兵庫県内の地域に日本語支援活動の実態や地域日本語教室の状況、運営課題について受講生に徹底できた。
- カ. 研修生とじかに受講生が接触し受講生は研修生の実態について深く考える機会とな

った。

Ⅲ. 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ア. 兵庫県内の行政、企業、地域日本語教室の連携した地域日本語教室を創設する。
(2009年9月より本講座修了生を活用し、モデル教室を実施した。)
- イ. 兵庫県内で、地域日本語教室がない市町に在住する「外国」人の中で日本語学習を望む人たちへ行政、企業と連携した派遣日本語学習支援システムを構築する。
(2010年度目標)

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

平成21年度ひょうごボランティア基金行政・NPO協働事業助成(NPO提案型 第2年次)事業「兵庫県内の企業等で働く外国人労働者およびその家族への日本語学習支援システムの構築」と連携し、モデル日本語教室設置運営へ本講座修了生を活用する。

② 研修後の人材活用

上記事業と連携し、モデル日本語教室設置運営へ本講座修了生を活用する。

(12) 今後の課題

- ① 兵庫日本語ボランティアネットワークが主催する日本語支援者養成講座は地域日本語支援者(ボランティア)を養成するための入門的な講座で27h(9日間×3h)、また文化庁委託事業での退職教師など対象の講座も39h(13日間×3h)で、日本語支援をするための動機付けとなり、また日本語支援を望む「外国人」を取り巻く社会的・歴史的環境や制度などを知ることで、多くの受講生が地域の日本語教室で活動している。
- ② しかし、地域日本語教室での学習者は多様化しており、多用なニーズを持って、地域日本語教室に来室してくる。彼らに応えたためには、柔軟な視点を持ち、ニーズに応じた多様な支援方法を必要とする。
- ③ 今回の講座のように、地域日本語教室で核になり、教室内の支援者(ボランティア)への指導的役割を果たす人を養成することが急務であるので、次年度も是非、本講座をより多くの人が受講できる内容日程を考え、継続していきたい。